

すずがも通信 42

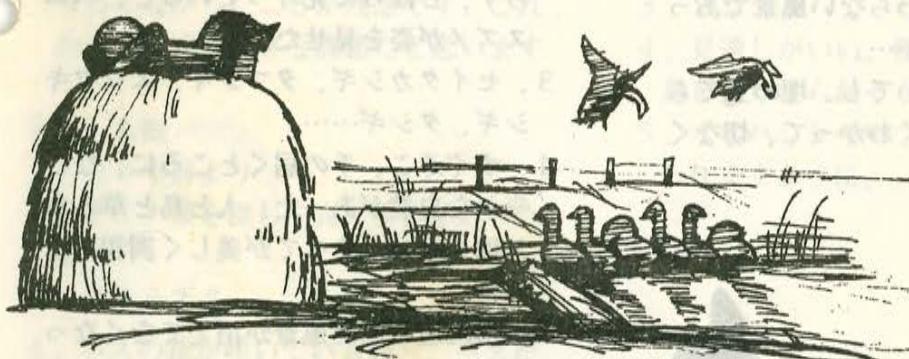
行徳野鳥観察舎友の会会報 1987・2月

特集：さようなら 妙典の蓮田

以前、妙典で鳥をとつて
いたという人に、こんな話を
聞いたことがある。

「秋の夕暮れに、つみ上げられた草の上でねニコがつて
いる。ガシガシ降りて来て、
エナをとつているのを見た。
マガシやヒシクイ…」

今じゃみんな天然記念物
だそんなあ…。」



市川 拓

はあと

遅ればせながら、新年明けましておめでとうございます。

昨年は忙しい年でした。一年前の今頃は水車せせらぎ1号設置のため、関係各庁との調整に走り回っていたとは思えないほどです。

水車1号を5月上旬に運転開始。その後の生物調査では思いがけぬほど、効果のあることがわかり、事故も故障もなく順調に実験は続いています。

何よりも驚いたのは、これもまた思いがけず大きな社会的反響のあったことでした。新聞・TVなどでたびたび紹介され、日本各地や、外国からも問い合わせが相次いでいます。それだけ、今の世の中、日本には、自然が無くなりつつあるのでしょうか。しかし、同時にまた、それだけ自然を大切に思っている人がいるということは大事なことだと思います。思いがけず広がった、この大きな波紋、着実に実を実らせたいものです。

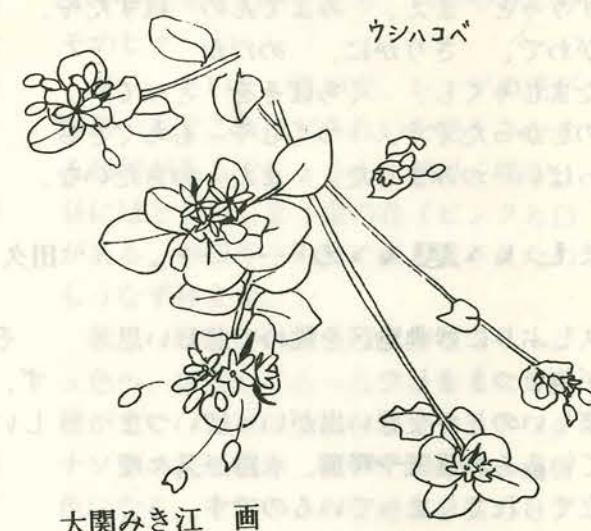
湿地造成実験の方は、まだ、関係各庁と調整の段階ですが、市川市によく御理解いただけたおかげで、順調に運びそうです。この春には、池の造成工事に取りかかるかもしれません。水車実験とは

東 良一

比べものにならないくらい、大規模な実験です。はっきりとした効果は何年かたたないとわからないかもしれません、この「夢への第一歩」確実に踏みしめていきたいと考えています。保護区が水鳥のヒナで賑わうのも、そう遠いことではないかもしれません。

月1回の丸浜川の底生生物調査に加え、保護区の土壤調査、新池での生物調査や水質調査など、各調査が増え忙しくなります。別に難しいことは何もなく、専門的な知識は必要ありません。興味をお持ちの方は遠慮なく、どしどし御参加下さい。

ウシハコベ



大関みき江 画

大野一敏氏『東京湾で魚を追う』出版記念

“いま、東京湾は生きている”講演と映画の集い

2月8日(日) 午後1時～5時 浦安文化会館中会議室

2月15日(日) " 行徳公民館2F集会室

2月22日(日) " 市川勤労福祉センター

講演：「東京湾で魚を追う」大野一敏氏(船橋漁協組合長)

映画：「首都の海」

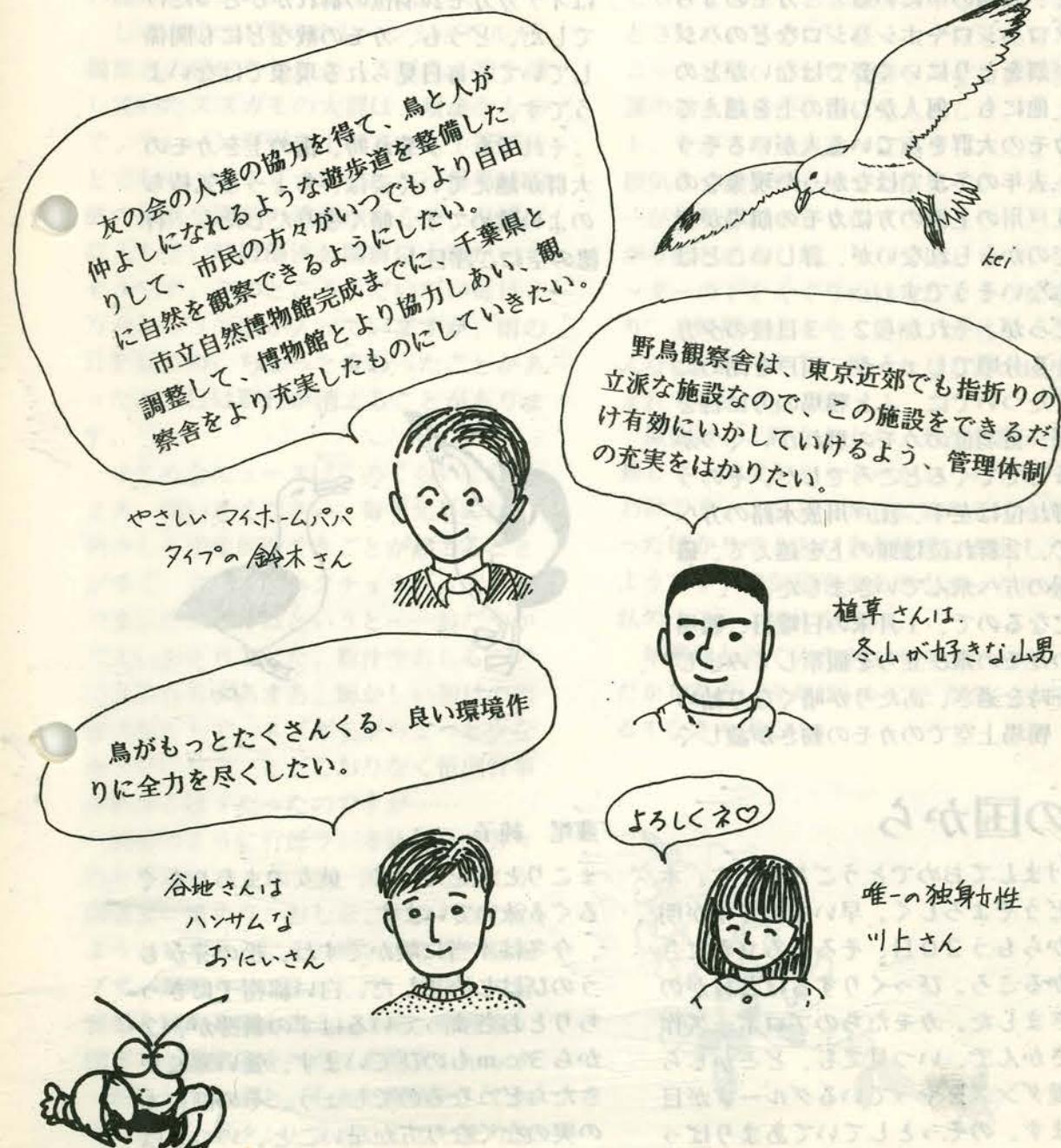
参加費：500円

主催：「東京湾の自然・環境を破壊する埋立開発から、三番瀬の海を守り、未来に活かす会」準備会

連絡先 藤原寿和

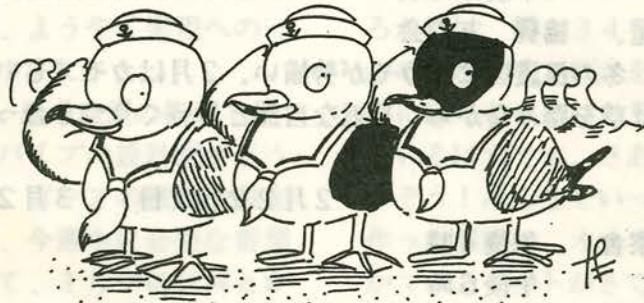
三次主幹、ごくろうさま

56年から5年半、野鳥観察舎の館長をつとめてこられた市川市農水産課主幹、三次史雄氏が昨年の12月31日付で、定年のため退職されました。長い間、本当にごくろうさまでした。代わりに、今後しばらくの間は、市川市農水産課の職員の方が交替で観察舎の勤務にあたられるそうです。そこで、観察舎にこられた職員の方に今後の抱負をおうかがいしてみました。



新 入 会 員

住 所 変 更



市川 拓 画

編集後記

特集のアンケートをまとめていると、ハス田に寄せる皆の思いがせつせつと伝わってきて……この思いをいつまでも忘れないようにしたいものです。特集を組んで本当によかったナとひとりで満足しています。（馨）

行徳の空を横断するのはカモばかりではありません。この1週間ほど続けて夕方3時半から4時半ごろの間にユリカモメの大群（100羽かそれ以上）がいくつも通過していくのをみています。江戸川をずっとさかのぼって餌を捜しに行き、夕方浦安の埋め立て方面に帰るものが押切から関が島、駅前4丁目あたりの上空を通っていくようです。夕方帰るなら、朝は出かけるところが見られるはずなのに、朝に弱い私はまだ1回も出発の様子を見ていません。どなたかごらんになつていませんか。（純）

すずがも通信 No. 42

1987年2月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア 500円

発行人 東 良一

賛助2000円以上

事務局 [REDACTED]

編集 東 馨子、蓮尾純子

郵便振替 [REDACTED]

行徳野鳥観察舎 [REDACTED]